

中央東農業振興センター 農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内JA	香南市、香美市、南国市 JA高知県香美地区、土長地区（南国市）										
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内は高知市の東に位置し、1級河川物部川の流域沿い3市（香南市・香美市・南国市）で構成され、JA高知県香美地区(旧JA土佐香美)、土長地区(旧JA南国市・JA長岡・JA十市)があります。</p> <p>物部川上流の山間農業地域ではユズ、中山間農業地域はニラ、やっこねぎ、青ネギ、ミカン等柑橘類、南部の平坦農業地域ではニラ、シシトウ、ピーマン、ナス、メロン、トマト等の多様な施設園芸地帯です。</p> <p>近年はIOP技術や省力化技術の普及推進、また集落営農の拡大及び新規就農者の確保・育成などに取り組んでいます。</p>										
人員配置 令和元年度 22名 令和2年度 22名 令和3年度 23名	<p>令和4年度職員総数 22名（うち実務経験が3年未満の職員3名）</p> <table border="1" data-bbox="504 1070 1362 1525"> <tr> <td colspan="2">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：香美市)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：香南市)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第三担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：南国市)</td> </tr> </table>	農業改良普及課長 1名		地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：香美市)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：香南市)	産地育成第三担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：南国市)
農業改良普及課長 1名											
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名 (担当エリア：全域)										
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：香美市)										
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：香南市)										
産地育成第三担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：南国市)										
普及活動の 進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> ・IOPや国営農地等に関する重点プロジェクト、重点課題及び3市ごとにチーム会（所内、関係機関を含む）を開催し、進捗状況や今後の推進方向などを協議しながら進めています。 ・第二四半期終了後に中間検討会を開催し、農業革新支援専門員から助言を受け、下半期の活動内容について検討を行っています。 ・週始めには課内ミーティングを実施し、1週間の動きの共有や業務の協力依頼、調整等を行っています。 ・普及課題ごとの普及指導活動記録や、関連する会議報告書や復命書を作成し、所属内で共有しています。 										

<p>職員の資質向上の取組状況</p>	<p>●職場研修（令和3年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月開催している課内会の後、職場研修を実施し資質向上に取り組んでいます。講師は普及課職員や農業革新支援専門員を招き実施しています。 <p>①技術研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬の安全使用や天敵利用技術等の研修 ・農産物の鮮度保持に関する研修 <p>②流通研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産園芸品の流通の仕組みや果樹の輸出に関する研修 <p>③その他の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の流動化に関する研修 ・クレーム対応法等、人との接し方の研修 ・Web会議の主催方法 等 <p>●新任者を対象にしたOJT（令和3年度）</p> <p>対象：1年目職員1名、2年目職員2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年目までの職員にはそれぞれトレーナー（チーフ等）を配置。 ・普及指導員として必要な栽培管理技術、実証ほ、現地検討会等を活用した普及方法、普及計画の策定と実践、関係機関との連携及びコミュニケーション能力などトレーナーを中心として職場全体で育成を進めています。 <p>●国段階研修（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1115 1422 1458"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普及指導員養成研修</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>新任普及指導員研修</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>普及指導員実務能力習得研修（課題発見力コース）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新任普及指導センター所長研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>スマート農業研修（果樹）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新規普及職員研修（中国四国ブロック）</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和2年度の参加人数 2名</p> <p>●県段階研修（令和3年度）</p> <table border="1" data-bbox="443 1570 1422 1720"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>（参考）令和2年度の参加人数 2名</p> <p>上記の他に、普及指導員専門技術高度化研修等へ参加 野菜 果樹 花き花木 普通作物 地域営農（経営・集落営農等） 14名 2名 2名 3名 4名</p>	研修名	人数	普及指導員養成研修	2名	新任普及指導員研修	2名	普及指導員実務能力習得研修（課題発見力コース）	1名	新任普及指導センター所長研修	1名	スマート農業研修（果樹）	1名	新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名	研修名	人数	花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上	2名	キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂	1名
研修名	人数																				
普及指導員養成研修	2名																				
新任普及指導員研修	2名																				
普及指導員実務能力習得研修（課題発見力コース）	1名																				
新任普及指導センター所長研修	1名																				
スマート農業研修（果樹）	1名																				
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名																				
研修名	人数																				
花き担当普及指導員の主要花き栽培技術指導力の向上	2名																				
キュウリのデータ解析技術の向上と栽培管理マニュアルの改訂	1名																				
<p>タブレット等ICT技術の活用状況について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現地での環境データの収集や情報提供 ・労働力確保等のための作業動画作成 ・関係機関との「SAWACHI」に関する研修会 ・オンライン会議（各種Web会議・研修等） 																				

外部評価対象課題の普及実績（3年度）及び計画（4年度）の概要

所属名	中央東農業振興センター																														
課題名	南国市シシトウ産地の維持・拡大																														
取組期間	令和3年度～令和4年度																														
対 象	南国市シシトウ部会																														
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○部会活動の活性化や栽培技術支援、データ駆動型農業の推進等により収量向上など生産安定を図る。 ○関係機関が連携した就農支援体制を確立し、新規就農者の確保・育成と経営安定を図る。 ○新規参入した農業法人の営農支援により早期経営安定を図り、産地の維持・拡大につなげる。 ○パック詰め作業の労力軽減や出荷体制等の検討、GAPの取組支援により、出荷・流通販売体制が強化される。 																														
令和3年度の主な実績	<p>①生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の課題に合った勉強会の開催により現地検討会等への参加者が増加した。 ・1月末時点の反収は目標に届かなかったものの、年間の全体収量の向上につながっている。 ・8戸で環境データの収集を開始し、栽培指導に向けた分析を開始した。 <p>②新規就農者・参入者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者への巡回指導や経営指導により、5戸中5戸が収量目標を達成した。 ・農業法人への営農支援により栽培管理や労務管理等を習得し、初年度の収量目標を達成した。 <p>③出荷・流通販売体制強化への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パック詰め機の実証に取り組み、処理能力等の把握や機械の改良が進んだ。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">項目</th> <th style="width: 12.5%;">現状（R2）</th> <th style="width: 12.5%;">目標（R3）</th> <th style="width: 12.5%;">実績（R3）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現地検討会等の参加率</td> <td>53%</td> <td>55%</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>反当収量（1月末時点）</td> <td>2.5 t</td> <td>2.7 t</td> <td>2.3 t</td> </tr> <tr> <td>データをもとに栽培管理を見直した農家数</td> <td>—</td> <td>8戸／8戸</td> <td>5戸／8戸</td> </tr> <tr> <td>経営目標達成農家数</td> <td>2戸／5戸</td> <td>5戸／5戸</td> <td>5戸／5戸</td> </tr> <tr> <td>農業法人の反当収量（1月末時点）</td> <td>—</td> <td>2.6 t</td> <td>2.6 t</td> </tr> <tr> <td>パック詰め作業の労力</td> <td>100%</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状（R2）	目標（R3）	実績（R3）	現地検討会等の参加率	53%	55%	58%	反当収量（1月末時点）	2.5 t	2.7 t	2.3 t	データをもとに栽培管理を見直した農家数	—	8戸／8戸	5戸／8戸	経営目標達成農家数	2戸／5戸	5戸／5戸	5戸／5戸	農業法人の反当収量（1月末時点）	—	2.6 t	2.6 t	パック詰め作業の労力	100%	90%	100%
項目	現状（R2）	目標（R3）	実績（R3）																												
現地検討会等の参加率	53%	55%	58%																												
反当収量（1月末時点）	2.5 t	2.7 t	2.3 t																												
データをもとに栽培管理を見直した農家数	—	8戸／8戸	5戸／8戸																												
経営目標達成農家数	2戸／5戸	5戸／5戸	5戸／5戸																												
農業法人の反当収量（1月末時点）	—	2.6 t	2.6 t																												
パック詰め作業の労力	100%	90%	100%																												
令和3年度の主要な活動内容と実施時期	<p>①生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地巡回や部会活動による栽培技術やIPM技術等の指導及び情報提供（4～3月） ・栽培・経営改善意欲の高い農家の選定と重点指導の実施（4～3月） ・環境データの収集及び分析と技術指導（9～3月） <p>②新規就農者・参入者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農希望者に対するPR、就農までのスケジュールの共有と進捗管理を実施（4～2月） ・新規就農者や農業法人へのほ場巡回指導や、課題の確認及び改善への支援（4～3月） <p>③出荷・流通販売体制強化への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パック詰め機の実証と処理能力等の分析を支援（4～9月） 																														



令和4年度の主な目標	○部会活動の活性化やデータ駆動型農業の実践など収量向上に向けた取り組みを推進し、産地の生産安定を図る。		
	○就農希望者の就農支援や新規就農者及び農業法人への営農指導により、担い手の確保・育成につなげる。		
	○パック詰めに係る労力確保や省力化の検討、GAPの取り組み等を支援し、出荷・流通販売体制の強化を図る。		
	項目	現状（R3）	目標（R4）
	現地検討会等の参加率	58%	60%
	反当収量（1月末時点）	2.3 t	2.9 t
	データをもとに栽培管理を見直した農家数	5戸／8戸	8戸／10戸
	経営目標達成農家数	5戸／5戸	5戸／5戸
農業法人の反当収量（1月末時点）	2.6 t	3.0 t	
パック詰め作業の労力	100%	85%	

令和4年度の主要な活動内容と実施時期	<p>①生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会活動の活性化に向けたアンケート調査と課題の共有、目標設定（7～3月） ・重点指導農家の現状把握と次作の経営目標達成に向けた助言指導（4～3月） ・環境データ等の分析結果に基づく栽培技術情報の共有及び技術指導（4～3月） <p>②新規就農者・参入者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農フェア等でのPR、基礎研修開始や中古ハウス確保への支援（4～3月） ・新規就農者の経営状況の把握と経営安定に向けた技術習得支援（4～3月） ・農業法人の栽培技術の定着に向けた支援（4～3月） <p>③出荷・流通販売体制強化への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械化や出荷形態等パック詰め作業の効率化に向けた支援（4～3月）
--------------------	--

所内体制	野菜担当：1名、経営・担い手担当：1名、環境制御普及推進担当：1名、産地育成担当チーフ：1名、地域営農担当チーフ：1名
------	---

連携推進体制の整備	<p>J A高知県土長地区南国営農経済センター、南国市農林水産課、中央東農業振興センター農業改良普及課が連携し、南国市シトウ部会の生産向上や担い手の確保・育成、パック詰め作業の省力化等の取り組みを支援。</p>	
-----------	---	--

令和3年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央東農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重点1	産地ビジョンに基づくニラ産地の維持・発展	5	出荷量(R3.1-12月) 6t/10a以上達成者数	2人/4人	4人/4人	3人/4人	△	労働力不足による作業や管理の遅れ、ほ場の排水不良が要因であり、次作に向けて計画的に作業が進むよう支援する。	
			経営目標達成農家数	3人/3人	5人/5人	4人/5人	△	未達成農家は、ほ場の排水不良で目標収量が確保できなかったため、継続して支援する。	
			製品量(12月)	90 ケース	200 ケース	110 ケース	△	そぐりセンター持込み量と作業員雇用者数のアンバランスで受込みが安定しておらず、周年栽培者からの安定出荷が進むよう支援する。	
			IoTクラウド利用効果の検証(環境データ活用農家数)	—	9戸	4戸	△	多くの生産者がIoTクラウドからデータ収集できない。活用場面としては現場でデータ収集し、生理障害回避と病害予防対策に活用する。	
重点2	南国市シントウ産地の維持・拡大	6	部会等の参加率	53%	55%	58%	○	全戸巡回により現状を把握し、地区の課題に合った勉強会の開催や取組支援ができた。	
			経営目標達成農家	2戸/5戸	5戸/5戸	5戸/5戸	○	個別巡回指導を月2回以上行うことで、課題に応じた経営支援ができた。	
			パック詰め作業の労力軽減	100%	90%	労力軽減なし	△	機械の改良に時間を要したため、今後は実用化に向けて他産地との連携など体制づくりに取り組む	
重点3	南国市の大規模農地整備を契機とした新たな営農推進	7	パプリカ収量(t/10a、2月末)	8.7	7.5	8.5	○	収量向上に向けた技術支援や、生育・収量調査に基づく栽培マニュアルの改訂ができた。	
			ドローン画像での欠株判定	無	有	有	○	関係機関や企業、大学等との連携により、ドローン画像による欠株判定の技術開発が進んだ。	
			課題解決に取り組む組織数	2	3	1	△	組織内での話し合いが十分にできないことから活動が停滞したため、関係機関で体制についてフォローしている。	
一般1	担い手育成体制の再構築	4	研修カリキュラムの作成	3	14	9	△	研修生の受入状況に合わせて研修内容を検討し、新たに6つのカリキュラムを作成した。	

一般2	集落営農の推進及び組織の育成	6	課題解決に取り組む組織数	4組織 /4組織	5組織 /5組織	5組織 /5組織	○	集落営農組織の課題整理、対策の助言及び実行支援により、5組織が課題解決に取り組み始めた。
一般3	女性農業者の活躍促進(消費宣伝活動の取り組みへの支援)	3	レシピ動画作成	0	2	2	○	インターネット等を活用した消費宣伝ツールとして、シトウ・ピーマンのレシピ動画を作成し、部会名で配信した。
一般4	担い手の育成を核とした「物部ゆず」の産地力強化	4	冬至玉出荷予測と実績の誤差	16%	10%	0.4%	○	誤差が大きい生産者を把握し、個票を作成して配布したことで、予測精度を向上させる必要性を認識してもらえた。
一般5	ハウスミカンの着花安定技術とミカンハダニ防除技術の高度化	2	着花量が極端に少ないハウスの棟数	1棟/ 101棟	0棟/ 101棟	2棟/ 95棟	△	結果母枝診断や前作収穫終了時期の適正化指導により、着花量の安定化を目指す。
一般6	小ネギ産地の維持・強化	2	夏期出荷量	204t	225t	193t	△	夏期の高温で出荷量が減少しており、種子の吸水処理方法やかん水管理の改善を図るための実証に取り組む。
一般7	フルーツマトの生産安定と担い手育成体制の確立	2	高糖度果出荷量(1月末まで)	1.2t/10a	1.3t/10a	1.4t/10a	○	現地検討会や個別巡回での遮光や灌水量、病害虫防除の指導により、高糖度果出荷量が増加した。
一般8	促成ピーマンの収量向上とデータ駆動型農業の推進	2	新規栽培者の収量(1月末)	3.7t/10a	3.9t/10a	4.9t/10a	○	個別巡回や栽培講習会での灌水・温度管理、病害虫防除、炭酸ガス施用の指導により、新規栽培者の出荷量が増加した。
一般9	ナスの生産性向上とデータ駆動型農業の推進	2	ナス出荷量(1月末まで)	5.0t/10a	5.3t/10a	5.3t/10a	○	現地検討会や個別巡回での、既存品種の病害虫防除、単為結果ナスの整枝管理の提案により出荷量が増加した。
一般10	オオバの生産安定と新規就農者の育成	2	夏期の出荷量(5~8月)	36.8t	40t	46.6t	○	病害虫対策に向けた巡回指導や実証ほの情報共有等により出荷量が増加した。
一般11	オクラの安定生産技術の確立	1	出荷量(4~10月)	407t	415t	398t	△	トンネル換気や病害虫防除の講習会等により、換気方法の改善やBT剤の普及につながった。
一般12	トルコギキョウの生産安定と担い手の受入れ体制強化	2	JA出荷本数(12~2月)	35万本	36.5万本	40.3万本	○	実証ほを設置し新たな土壌消毒法を検討した。病害の抑制効果が明らかになり、出荷量も増加した。
一般13	早期水稻の生産振興	1	早生1等米比率	12.9%	20%	5.8%	△	実証ほを活用した現地検討会等を実施した。収量は増加したが、夏期の高温により品質向上には至らなかった。
一般14	農福連携の推進	3	農福連携の体制整備	—	1	0	△	研究会を立ち上げることはできたが、具体的な活動までには至っていない。

令和4年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央東農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重点1	産地ビジョンに基づくニラ産地の維持・発展	6	(既存農家)出荷量 6t/10a以上達成者 数	3人/4人	4人/4人	個別面談による課題の整理、経営計画作成支援 (1~2回/戸/月)	
			(規模拡大)経営計 画作成農家数	2	2	個別分析による経営実態把握	
			(新規就農)経営目 標達成農家数	4人/5人	5人/5人	個別巡回での課題の抽出・改善指導	
			(そぐりセンター) 日製品量(12月)	116ケース	200ケース	目慣らし会、関係機関との定例会の開催(1回/月)、 利用者への巡回による品質向上	
重点2	南国市シントウ産地の維持・拡大	4	部会等の参加率	58%	60%	部会活動へのアンケート調査、結果の分析、チーム 会、役員会での目標設定	
			経営目標達成農家 数	5戸/5戸	5戸/5戸	経営状態の把握及びシントウ部会役員等による個別 巡回指導	
			パック詰め作業の 労力軽減	100%	85%	チーム会、部会等での機械化、作業の効率化等につ いて協議	
			1月末反当収量 (最終)	2.6t	3.0t (10t)	PT会、個別巡回指導での技術定着支援	
			IoTクラウド利用効 果の検証(データをも とに栽培管理を見直 した農家数)	5戸/8戸	8戸/10戸	環境データ結果に基づく個別巡回指導、現地検討会 の開催	
重点3	南国市の大規模農地整備を契機とした新た な営農推進	8	パブリカ収量 (t/10a、2月末)	8.5	8.0以上	巡回指導での栽培管理状況の把握、労務改善支援	
			有望品目	1	2	実証ほ設置及び調査	
			欠株率判定	90.5%	93.0%	ドローンによるデータ収集	
			課題解決に取り組 む組織数	1	3	個別巡回による栽培、経営指導	
一般1	新規就農者の確保	4	親元就農者数	—	3名	親元就農のPR資料の作成、部会への周知 個別面談による経営継承、家族経営協定の推進	
一般2	集落営農の推進及び組織の育成	7	課題解決に取り組 む組織数	5組織 /5組織	6組織 /6組織	役員会等での課題整理と対策の助言 集落営農塾(法人経営コース)の開催	

一般3	担い手の育成を核とした「物部ゆず」の産地力強化	4	園地台帳作成済地区	0/19地区	19/19地区	意向調査、部会委員会の開催、個別巡回	
一般4	ハウスミカンの着花安定技術とミカンハダニ防除技術の高度化	2	着花量が極端に少ないハウスの棟数	2棟/93棟	0棟/93棟	現地検討会及び個別巡回での収穫切り上げ、炭酸ガス施用技術指導	
一般5	小ネギ産地の維持・強化	2	夏期出荷量(8～10月)	193t	225t	夏期安定技術の実証ほ設置、現地検討会の開催	
一般6	フルーツマトの生産安定と担い手育成体制の確立	2	高糖度果出荷量(1月末まで)	1.4t/10a	1.5t/10a	かん水及び温湿度管理技術の個別巡回、現地検討会の開催	
一般7	促成ピーマンの収量向上とデータ駆動型農業の推進	2	新規栽培者の目標収量達成(1月末)	2人/11人	5人/11人	チーム会、PT会での支援計画検討、個別巡回での栽培管理指導	
			新規法人の収量(1月末)	—	6.5t/10a		
			IoTクラウド利用効果の検証 栽培管理を見直した農家数	—	2戸	環境データの分析、結果に基づく個別巡回指導	
一般8	ナスの生産性向上と担い手の育成	3	ナス出荷量(1月末まで)	5.3t/10a	5.5t/10a	環境データの分析、結果に基づく個別巡回指導	
一般9	オオバの生産安定と新規就農者の育成	3	夏期の出荷量(5～8月)	土長地区 34.6t 香美地区 12.0t	土長地区 35t 香美地区 13t	実証ほ設置2カ所、病害虫発生状況調査と防除指導	
一般10	オクラの安定生産技術の確立	1	出荷量(4～10月)	398t	430t	高収量農家の現地調査、現地検討会、IPM防除方法実証展示ほ設置	
			新規栽培者向け栽培暦と作業チェックシートの作成	なし	あり	新規栽培者の課題整理、個別巡回指導	
一般11	トルコギキョウの生産安定と新規就農者の育成	2	JA及び花匠出荷本数(12～1月)	46万本	47万本	低濃度エタノール土壌還元消毒実証ほ設置、秀品率調査	
			新規栽培者	0名	1名	個別巡回による経営支援、勉強会の開催	
一般12	早期水稻の生産振興	1	JA出荷の1等米比率	5.8%	20%	県奨励品種及び除草剤実証ほ設置	
			よさ恋美人'の栽培面積	16ha	40ha	実証ほ設置、採種ほ生育状況確認、ほ場審査	
一般13	農福連携の推進	5	作業マニュアルの作成	—	2	農福連携農家等への作業内容聞き取り、動画撮影及び編集	

令和4年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央東農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内(所内)の分担	○職場の風通しの良さを感じエネルギーが伝わってくる。新任者も意見を言える雰囲気が良い。課内の体制も適切だと思う ●地域を巻き込んで、ベテランと新規職員の情報交換ができています
	・活動の進ちょく管理の体制	●活動記録を共有している
	・普及指導員の資質向上の取組	●新任者にコミュニケーション能力を高めるためトレーナーをつけていることはすばらしい ●職場研修は月1回定期的に行われ、具体的なテーマで実質的な研修ができています。「人との接し方」の研修は、普及指導員として重要なので、今後も継続して欲しい
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	●シントウのパック詰め作業は全て手作業であり、労働力不足対策として機械化を課題に設定している。パック詰め機械化は重要な役割で、引き続き完成度を高めて欲しい ●各作物に対応した課題が設定されている
	・対象の設定	●法人、個人ともに支援は大切
	・関係機関との連携	○新規就農者の個別巡回時、普及課の栽培担当、経営担当に加え部会役員3者が助言指導しており良い取り組み。 ●今後もデータ駆動型農業も含め、効率的な営農指導体制に向けて連携して欲しい
	・目標設定	●長期目標から短期目標まで一歩ずつ取り組んでいる
普及指導活動の成果	・活動の経過	●「栽培と経営」の両方とも大切に指導できている ●産地維持のためにも収量確保が重要なので生産指導は今後も必要 ●新規就農者の経営安定に向けて部会役員から助言をもらうなど農家目線を大切にしている
	・実績(活動の結果)	○講習会の内容を農家のニーズに合わせて開催し、参加率を40%から58%まで向上させ、部会活動を活発化させた
	・成果(目標達成状況)	●小さなことでコツコツと成果が出ていると思う
	・結果の周知	
外部評価、総合所見等 ○家庭消費を増やすため、県が主体となってシントウの消費拡大のPRも必要。環境保全農業を積極的に取り組んでおり、プラスチック廃棄問題のあるパック販売について考えて欲しい ●空きハウスの流動化も重要		